

## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

トリス(2-エチルヘキシル) 1,2,4-ベンゼントリカルボキシレートの藻類 (*Selenastrum capricornutum*) に対する生長阻害試験

### 試験番号

NMMP/E09/1080

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 201 「藻類生長阻害試験」 (1984 年) に準拠して実施した。

- 1) 被験物質 : トリス(2-エチルヘキシル) 1,2,4-ベンゼントリカルボキシレート
- 2) 培養方式 : 振とう培養 (100rpm)
- 3) 供試生物種 : *Selenastrum capricornutum* (ATCC-22662)
- 4) 温度 :  $23 \pm 2$  °C
- 5) 暴露期間 : 72 時間
- 6) 試験液量 : 100 mL (OECD 培地)
- 7) 照明 : 4000~5000 lux (連続照明)
- 8) 初期細胞濃度 :  $1 \times 10^4$  cells/mL
- 9) 試験濃度 (設定) : 対照区、助剤対照区 (HCO-40, 100mg/L)、100mg/L  
(分散最高濃度による限度試験)
- 10) 試験液中の被験物質の分析  
: HPLC法 (暴露開始時、終了時)

## 結 果

### 1) 生長曲線下の面積の比較による生長阻害濃度

EbC50 (0-72) = 100mg/L 以上

無影響濃度 (NOEC(面積法 0-72)) = 100mg/L 以上

### 2) 生長速度の比較による生長阻害濃度

ErC50 (24-48) = 100mg/L 以上

無影響濃度 (NOEC(速度法 24-48)) = 100mg/L 以上

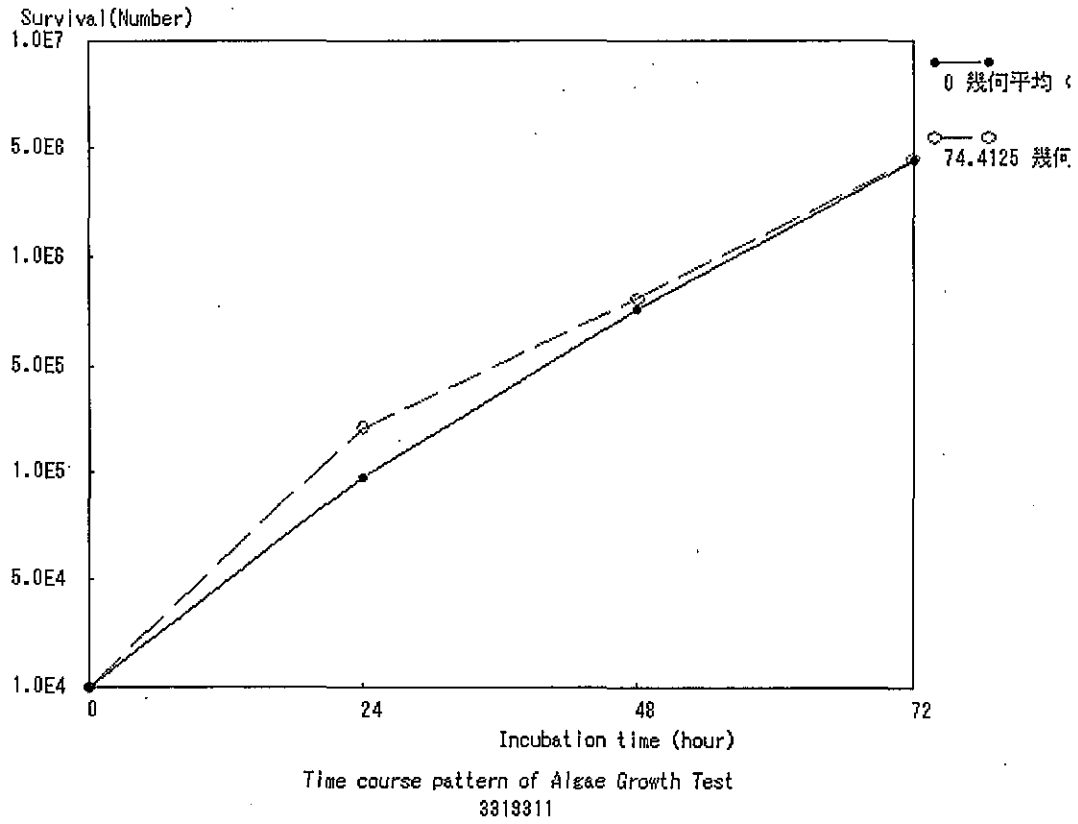
ErC50 (24-72) = 100mg/L 以上

無影響濃度 (NOEC(速度法 24-72)) = 100mg/L 以上

(上記濃度は、全て設定濃度に基づく値)

1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸トリス(2-エチルヘキシル)エステル  
(CAS.3319-31-1)

① 生長曲線



② 毒性値

0-72hErC50 (実測値に基づく) >74 mg/L

0-72hNOECr (実測値に基づく) =74 mg/L (試験上限濃度では影響が認められなかった)

## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

トリス(2-エチルヘキシル) 1,2,4-ベンゼントリカルボキシレートのおオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する急性遊泳阻害試験

### 試験番号

NMMP/E09/2080

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」(1984年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質 : トリス(2-エチルヘキシル) 1,2,4-ベンゼントリカルボキシレート
- 2) 暴露方法 : 止水式
- 3) 供試生物 : おオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間 : 48 時間
- 5) 連数 : 1 濃度区につき 4 連
- 6) 生物数 : 20 頭 / 1 濃度区 (1 連につき 5 頭で 1 濃度区 20 頭)
- 7) 試験濃度 : 対照区、助剤対照区、17.1mg/L、30.9mg/L、55.6mg/L、100.0mg/L  
および 180.0mg/L(おオミジンコの観察可能な最高分散濃度 (公比 1.8))
- 8) 試験水量 : 100 mL
- 9) 照明 : 室内光、16 時間明 / 8 時間暗
- 10) 試験水温 : 20±1°C

### 結 果

#### 1) 24 時間暴露後の結果

24 時間半数遊泳阻害濃度 (EiC50) = 180.0mg/L 以上

#### 2) 48 時間暴露後の結果

48 時間半数遊泳阻害濃度 (EiC50) = 180.0mg/L 以上

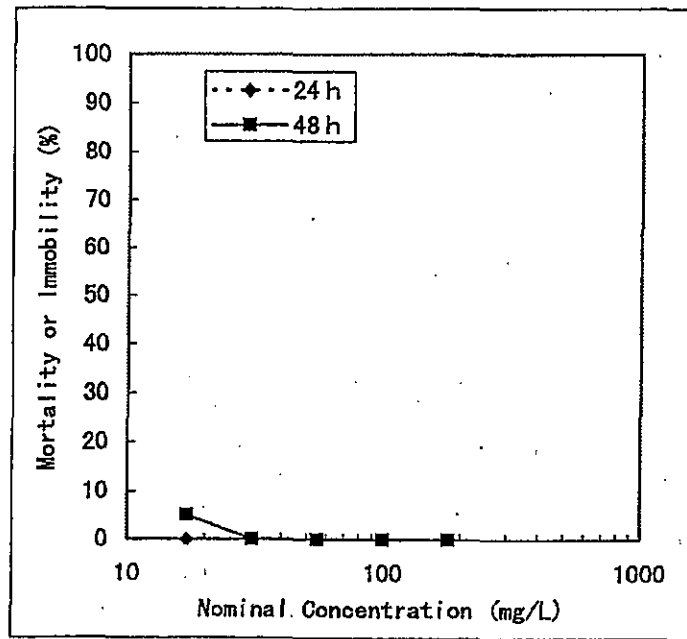
最大無作用濃度 (NOECi) = 180.0mg/L 以上

100% 阻害最低濃度 = 180.0mg/L 以上

(上記濃度は、全て設定濃度に基づく値)

Figure 1 Concentration-Response Curve of Tris(2-ethylhexyl) 1,2,4-benzenetricarboxylate

Mortality or Immobility in *Daphnia magna*



## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

トリス(2-エチルヘキシル) 1,2,4-ベンゼントリカルボキシレートのおオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する繁殖阻害試験

### 試験番号

NMMP/E09/3080

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 202 「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」 (1984年4月採択) の改訂版であるガイドライン No. 211 「おオミジンコ繁殖試験」 (1997年4月提案) に準拠して実施した。

- 1) 被験物質 : トリス(2-エチルヘキシル) 1,2,4-ベンゼントリカルボキシレート
- 2) 暴露方法 : 半止水式 (週に3回、試験液の全量を交換)
- 3) 供試生物 : おオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間 : 21 日間
- 5) 試験濃度 : 対照区、助剤対照区、55.6mg/L、100.0mg/L(設定濃度)  
(公比1.8、助剤濃度100mg/L、助剤 HCO-40)
- 6) 試験液量 : 1 容器 (連) につき 80 mL
- 7) 連数 : 10 容器 (連) / 濃度区
- 8) 供試生物数 : 10 頭 / 濃度区 (1 連につき 1 頭)
- 9) 試験水温 : 20±1℃
- 10) 照明 : 室内光、16 時間明 / 8 時間暗
- 11) 被験物質の分析 : HPLC法

## 結 果

### 1) 試験液中の被験物質濃度

実測濃度が設定濃度の±20%以内であったので結果の算出には設定濃度を用いた。

2) 21日間の親ミジンコの半数致死濃度(LC50) = 100.0mg/以上

3) 21日間の50%繁殖阻害濃度(ErC50)

= 89.1mg/L (95%信頼区間 : 82.3mg/L~97.5mg/L)

4) 21日間の最大無作用濃度(NOECr) = 55.6mg/L

5) 21日間の最小作用濃度(LOECr) = 100.0mg/L

(上記濃度は、設定濃度に基づく値)

Figure 1 Cumulative Numbers of Dead Parental *Daphnia*

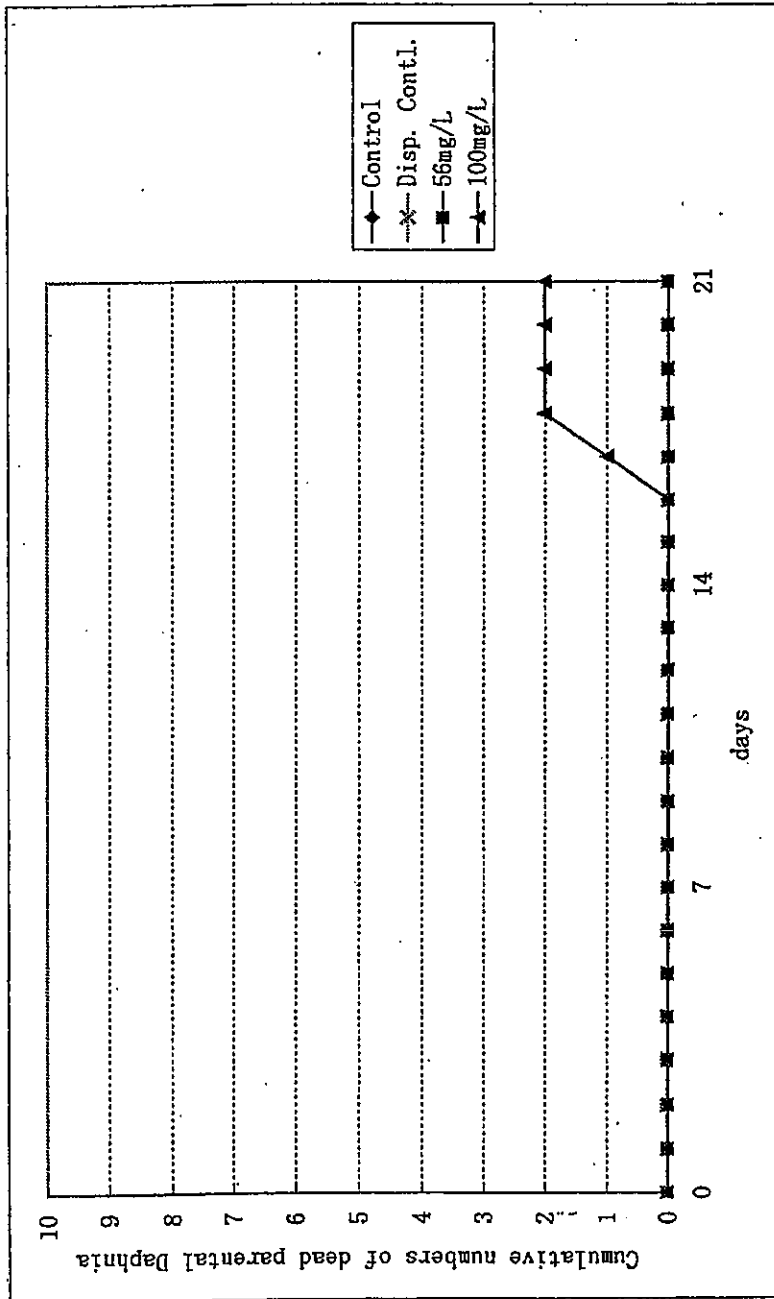
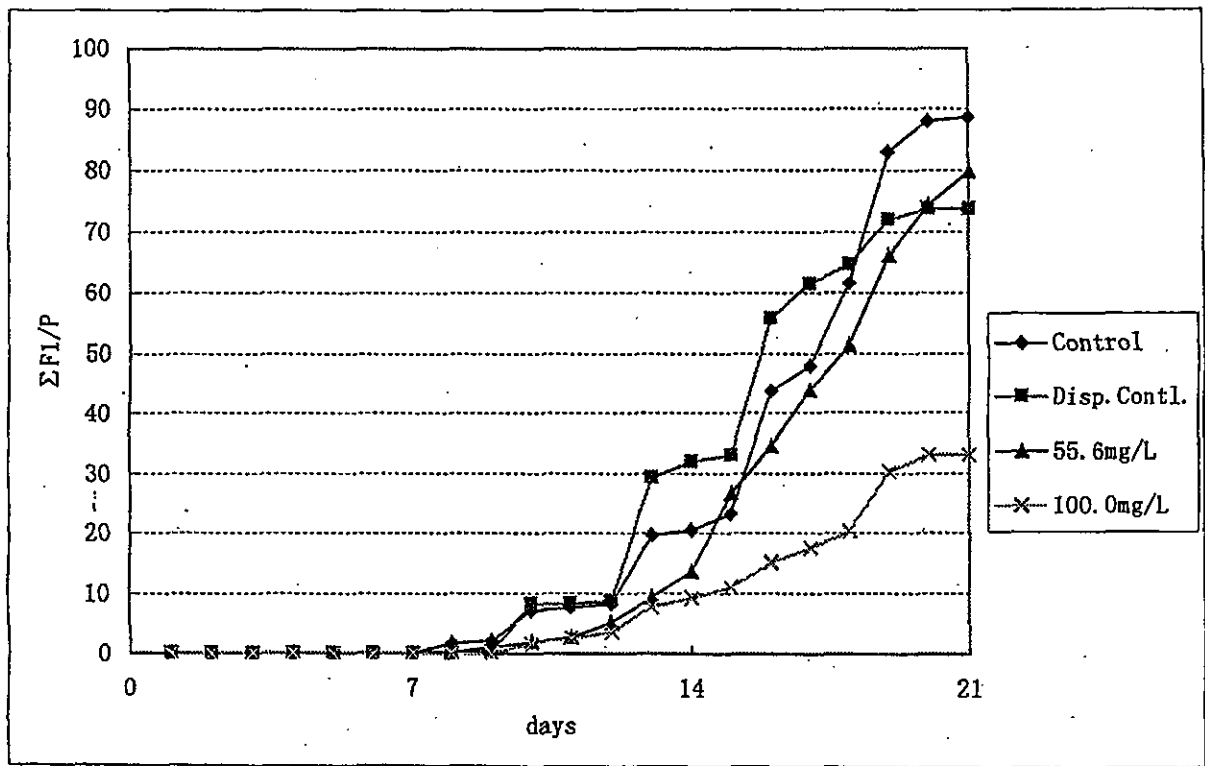




Figure 2 Mean Cumulative Numbers of Juveniles Produced per Adult ( $\Sigma F1/P$ ) during 21 days



## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

トリス(2-エチルヘキシル)1,2,4-ベンゼントリカルボキシレートのみメダカ  
(*Oryzias latipes*) に対する急性毒性試験

### 試験番号

NMMP/E09/4080

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 203「魚類毒性試験」(1992年)に準拠して実施した。

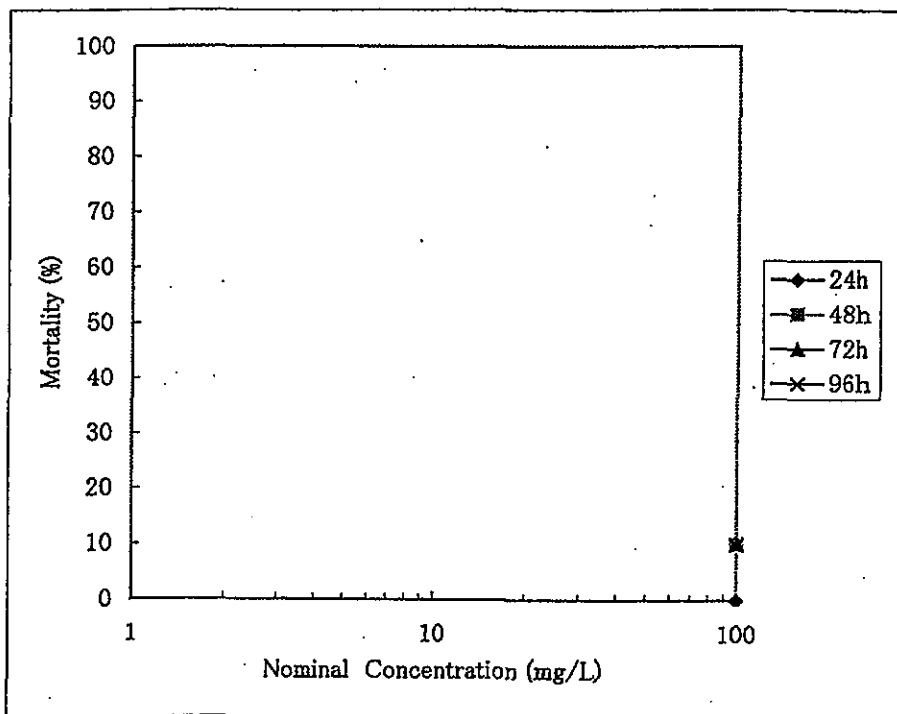
|         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 被験物質    | : トリス(2-エチルヘキシル)1,2,4-ベンゼントリカルボキシレート |
| 方式      | : 半止水式(24時間換水)                       |
| 供試生物    | : ヒメダカ( <i>Oryzias latipes</i> )     |
| 試験濃度    | : 対照区、助剤対照区および100mg/L(設定濃度)          |
| 曝露期間    | : 96時間                               |
| 試験液量    | : 3.0L                               |
| 生物数     | : 10尾/濃度区                            |
| 照明      | : 室内光、16時間明/8時間暗                     |
| エアレーション | : なし                                 |
| 温度      | : 24±1℃                              |

### 結 果

試験の結果、トリス(2-エチルヘキシル)1,2,4-ベンゼントリカルボキシレートの設定濃度に基づく96時間の半数致死濃度(LC50)は100mg/L以上であった。

Figure 1. Concentration-Response Curve of Tris(2-ethylhexyl)1, 2, 4-benzenetricarboxylate

Mortality in Orange killifish



## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

1, 2, 3-トリクロロベンゼンの藻類 (*Selenastrum capricornutum*) に対する生長阻害試験

### 試験番号

7B730G

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 201「藻類生長阻害試験」(1984年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質: 1, 2, 3-トリクロロベンゼン
- 2) 暴露方式: 止水式 (密閉), 振とう培養 (100rpm)
- 3) 供試生物: *Selenastrum capricornutum* (ATCC22662)
- 4) 暴露期間: 72時間
- 5) 試験濃度 (設定値): 対照区, 助剤対照区, 0.050, 0.120, 0.280, 0.640, 1.50, 3.40  
8.00mg/L (公比: 2.3, 助剤濃度一定: 80 mg/L, シメチリンA7ミ\*  
および HCO-40使用)
- 6) 試験液量: 100 mL (OECD培地)
- 7) 連数: 3容器/濃度区
- 8) 初期細胞濃度:  $1 \times 10^4$  cells/mL
- 9) 試験温度:  $23 \pm 2$  °C
- 10) 照明: 4000~5000 lux (連続照明)
- 11) 被験物質の分析: HPLC法

## 結 果

### 1) 試験液中の被験物質濃度

各試験液の濃度は開始時において設定値の±20%以内であったため、下記の生長阻害濃度の算出には設定値を採用した。

暴露72時間後の設定値に対する割合は66~89%であった。被験物質は揮発性であるため、被験物質濃度の減少は、主に揮発によるものと判断した。

### 2) 生長曲線下面積の比較による阻害濃度

50%生長阻害濃度 EbC50(0-72) : 1.08 mg/L (95%信頼区間 : 0.833~1.41 mg/L)

無影響濃度 NOECb(0-72) : 0.280 mg/L

### 3) 生長速度の比較による阻害濃度

50%生長阻害濃度 ErC50(24-48) : 2.79 mg/L (95%信頼区間 : 2.73~2.86 mg/L)

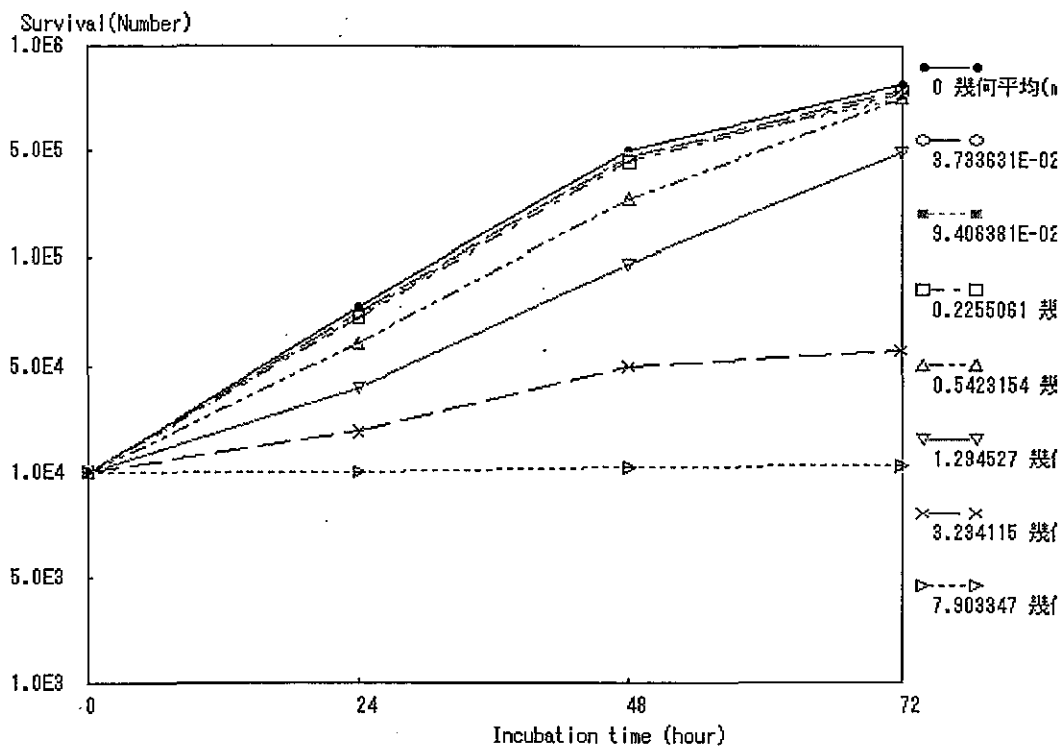
無影響濃度 NOECr(24-48) : 0.640 mg/L

50%生長阻害濃度 ErC50(24-72) : 3.23 mg/L (95%信頼区間 : 算出不可能)

無影響濃度 NOECr(24-72) : 1.50 mg/L

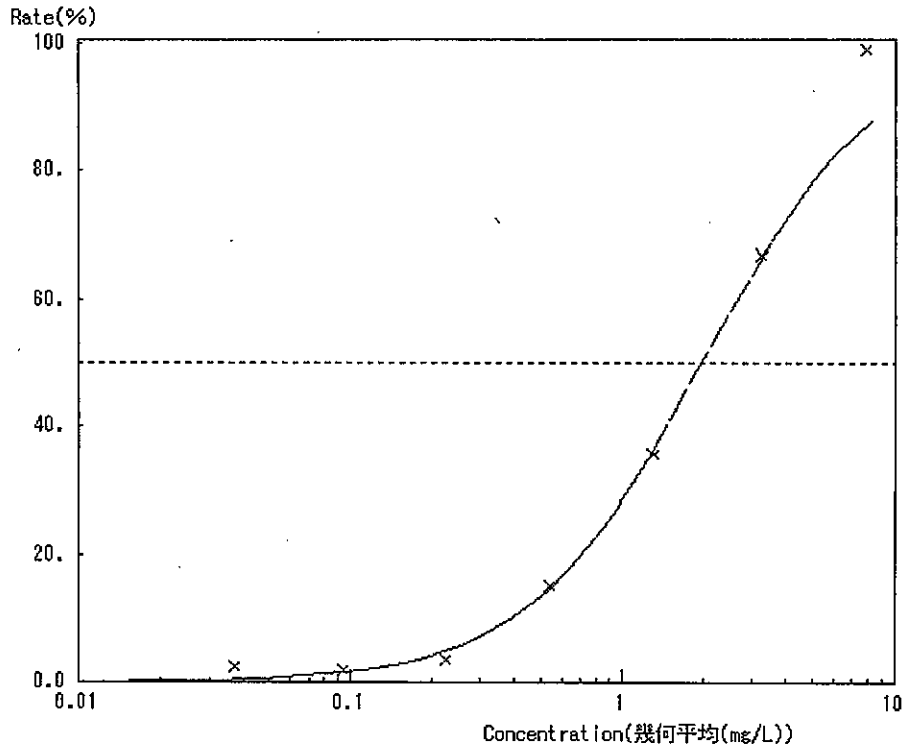
1, 2, 3-トリクロロベンゼン (CAS.87-61-6)

① 生長曲線



Time course pattern of Algae Growth Test  
87616

② 阻害率曲線



Dose-response curve for EC50 of Algae Growth Test. (Logit method)  
87616

③ 毒性値

0-72hErC50 (実測値に基づく) = 1.9 mg/L

0-72hNOECr (実測値に基づく) = 0.094 mg/L

## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

1,2,3-トリクロロベンゼンのオオミジンコ (*Daphnia magna*)に対する急性遊泳阻害試験

### 試験番号

7B748G

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類，急性遊泳阻害試験および繁殖試験」（1984年）に準拠して実施した。

- 1)被験物質： 1,2,3-トリクロロベンゼン
- 2)暴露方式： 止水式
- 3)供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4)暴露期間： 48時間
- 5)試験濃度(設定値)： 対照区, 助剤対照区, 0.100, 0.180, 0.320, 0.560および 1.00 mg/L  
(公比1.8, 助剤濃度一定：33 mg/L, HCO-40 および DMF使用)
- 6)試験液量： 1容器(連)につき 100 mL
- 7)連数： 4容器(連) / 濃度区
- 8)供試生物数： 20頭 / 濃度区 (1連につき5頭)
- 9)試験温度： 20±1°C
- 10)照明： 16時間明 / 8時間暗
- 11)被験物質の分析： HPLC法



## 結 果

### 1) 試験液中の被験物質濃度

被験物質の実測濃度が設定値の±20%を越えたものがあつたため、各影響濃度の算出には実測値（幾何平均値）を採用した。

### 2) 24時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EiC50) : 0.412 mg/L (95%信頼限界 : 0.256~0.786 mg/L)

最大無作用濃度(NOECi) : 0.256 mg/L

100%阻害最低濃度 : 0.786 mg/L

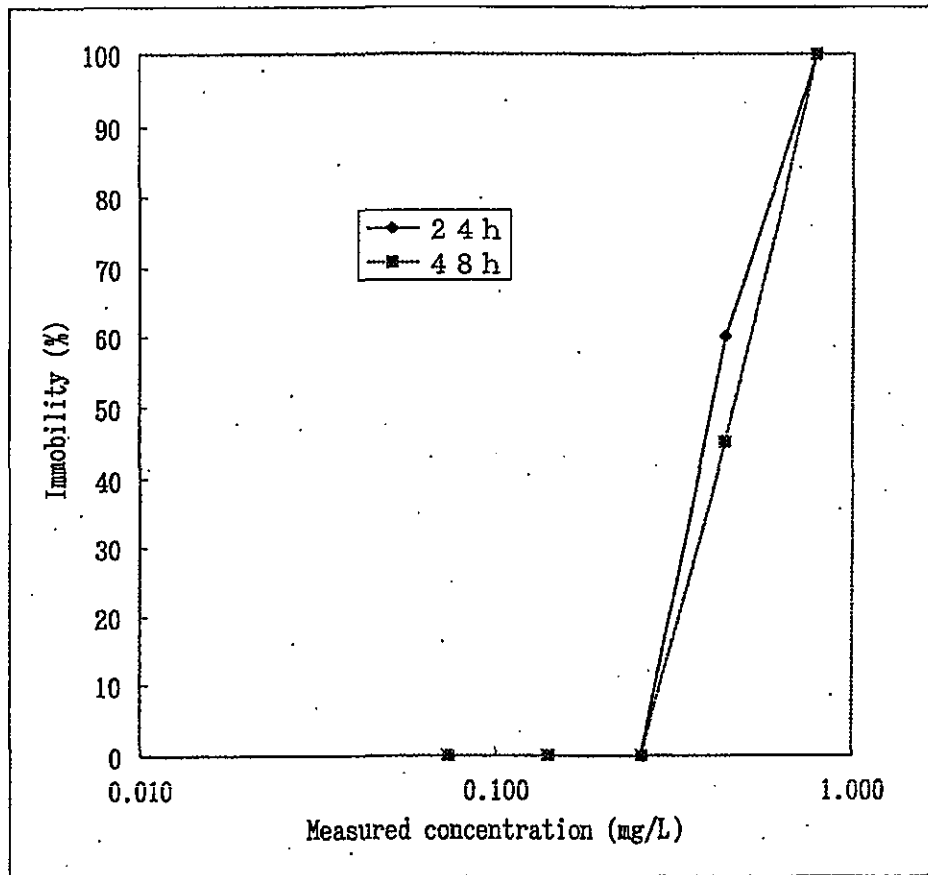
### 3) 48時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EiC50) : 0.458 mg/L (95%信頼限界 : 0.256~0.786 mg/L)

最大無作用濃度(NOECi) : 0.256 mg/L

100%阻害最低濃度 : 0.786 mg/L

Figure 1 Concentration-Immobilization Curve for a 48-Hour *Daphnia magna* Immobilization Test



## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

1,2,3-トリクロロベンゼンのオオミジンコ (*Daphnia magna*)に対する繁殖阻害試験

### 試験番号

7B766G

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」(1984年4月採択)の改訂版であるガイドライン No.211「オオミジンコ繁殖試験」(1997年4月提案)に準拠して実施した。

- 1)被験物質： 1,2,3-トリクロロベンゼン
- 2)暴露方式： 半止水式(週に3回、試験液の全量を交換)
- 3)供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4)暴露期間： 21日間
- 5)試験濃度(設定値)： 対照区, 助剤対照区, 0.020, 0.045, 0.100, 0.220, 0.500 mg/L  
(公比 2.2, 助剤濃度一定: 20 mg/L, HCO-40 および DMF使用)
- 6)試験液量： 1容器(連)につき 80 mL
- 7)連数： 10容器(連) / 濃度区
- 8)供試生物数： 10頭 / 濃度区 (1連につき1頭)
- 9)試験温度： 20±1°C
- 10)照明： 16時間明 / 8時間暗
- 11)被験物質の分析： HPLC法

## 結 果

### 1) 試験液中の被験物質濃度

暴露期間中に測定した試験液の被験物質濃度が、設定値の±20%を越えたため、各影響濃度の算出には実測値（時間加重平均値）を採用した。

### 2) 21日間の親ミジンコの半数致死濃度(LC50) :

0.280 mg/L (95%信頼限界 : 0.167~0.392 mg/L)

### 3) 21日間の50%繁殖阻害濃度(EC50) :

>0.392 mg/L

0.167mg/Lでは阻害率0%以下で、0.392 mg/Lでは親が9頭死亡し、かつ生存した1頭の親の繁殖阻害率が42.2%であったため、50%繁殖阻害濃度(EC50)は、>0.392 mg/Lと表示した。しかしながら、この濃度では明らかに親に対して長期影響があるものと判断した。

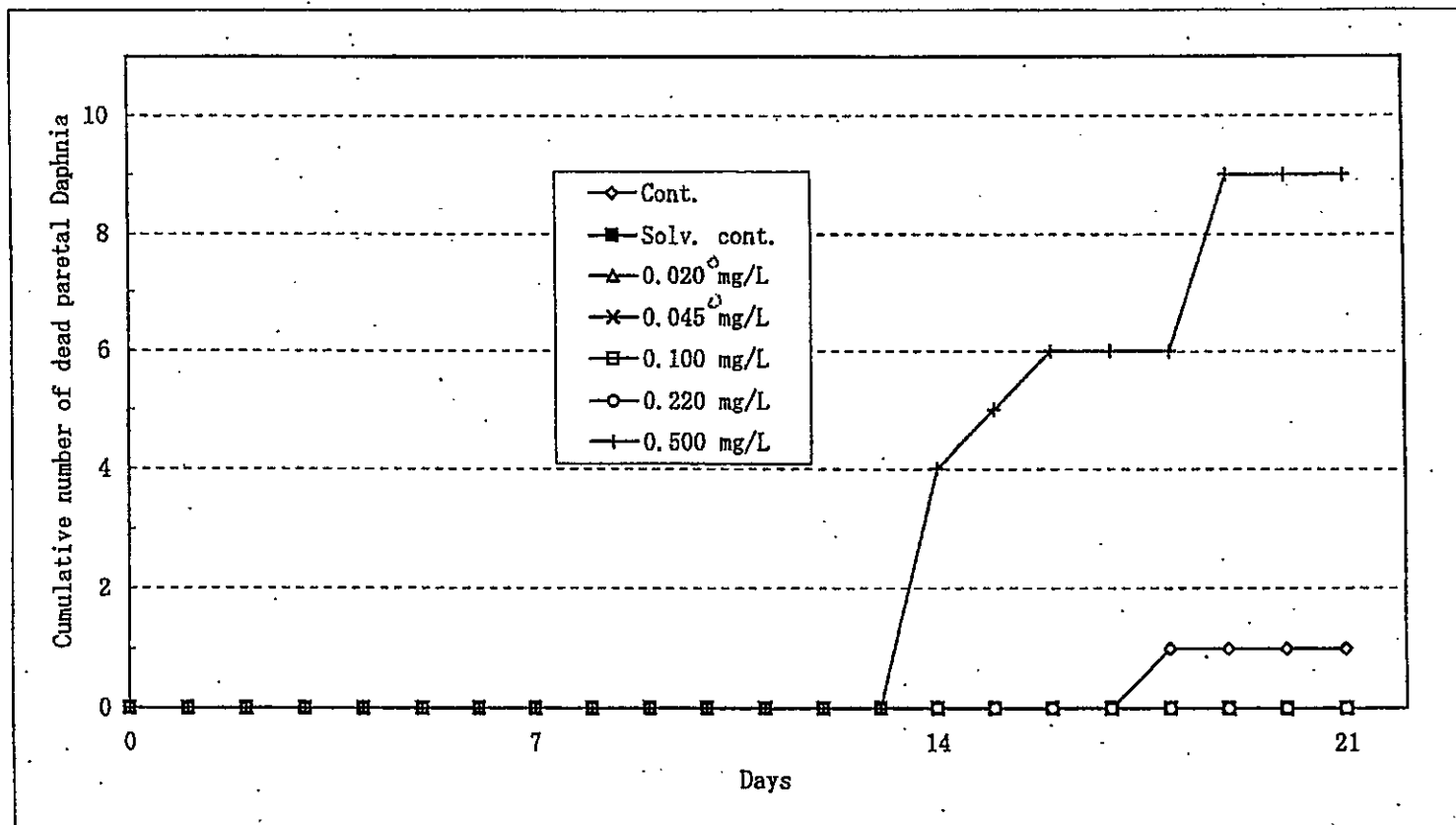
### 4) 21日間の最大無作用濃度(NOEC) :

0.167 mg/L

### 5) 21日間の最小作用濃度(LOEC) :

0.392 mg/L

Figure 1 Cumulative Numbers of Dead Parental *Daphnia*

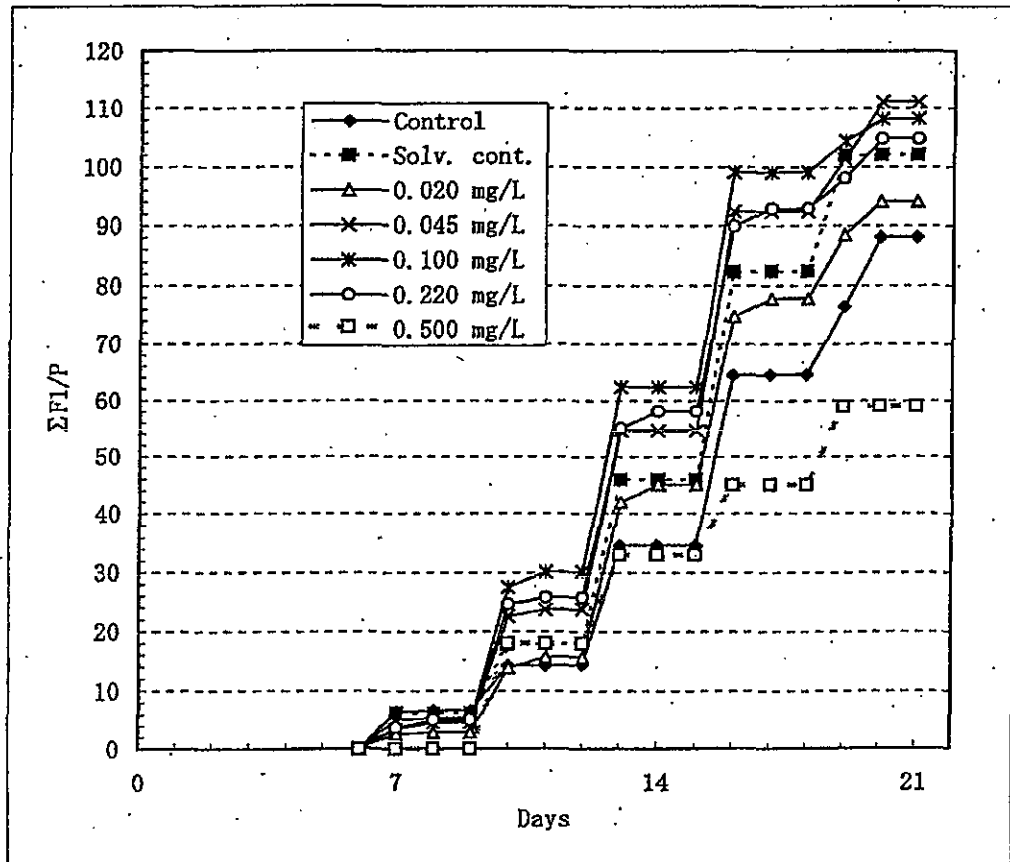


Values in legend are given in the nominal concentration.

Table 4 Mean Cumulative Numbers of Juveniles Produced per Adult Alive for 21 Days ( $\Sigma F1/P$ )

| Nominal Conc. | Days |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |       |       |
|---------------|------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|
|               | 6    | 7   | 8   | 9   | 10   | 11   | 12   | 13   | 14   | 15   | 16   | 17   | 18   | 19    | 20    | 21    |
| Control       | 0.0  | 6.4 | 6.7 | 6.7 | 14.2 | 14.2 | 14.4 | 34.7 | 34.7 | 34.7 | 64.4 | 64.6 | 64.6 | 76.3  | 88.1  | 88.1  |
| Solv. cont.   | 0.0  | 6.2 | 6.2 | 6.2 | 17.8 | 17.9 | 17.9 | 45.9 | 45.9 | 45.9 | 82.3 | 82.4 | 82.4 | 101.9 | 102.0 | 102.0 |
| 0.020 mg/L    | 0.0  | 2.6 | 2.9 | 2.9 | 13.8 | 15.7 | 15.7 | 42.0 | 45.0 | 45.0 | 74.7 | 77.8 | 77.8 | 88.5  | 94.1  | 94.1  |
| 0.045 mg/L    | 0.0  | 3.5 | 4.6 | 4.6 | 22.6 | 23.7 | 23.8 | 54.6 | 54.6 | 54.6 | 92.4 | 92.4 | 92.4 | 101.4 | 111.1 | 111.1 |
| 0.100 mg/L    | 0.0  | 5.1 | 5.5 | 5.5 | 27.5 | 30.1 | 30.2 | 62.3 | 62.3 | 62.3 | 99.1 | 99.1 | 99.1 | 104.4 | 108.1 | 108.2 |
| 0.220 mg/L    | 0.0  | 3.7 | 5.1 | 5.1 | 24.6 | 25.8 | 25.8 | 55.0 | 58.1 | 58.1 | 89.9 | 92.9 | 92.9 | 98.1  | 104.8 | 104.8 |
| 0.500 mg/L    | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 18.0 | 18.0 | 18.0 | 33.0 | 33.0 | 33.0 | 45.0 | 45.0 | 45.0 | 59.0  | 59.0  | 59.0  |

Figure 2 Time Course of  $\Sigma F1/P$  for Each Concentration Level



Values in legend are given in the nominal concentration.

## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

1,2,3-トリクロロベンゼンのヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する急性毒性試験

### 試験番号

7 B 7 8 4 G

### 試験方法

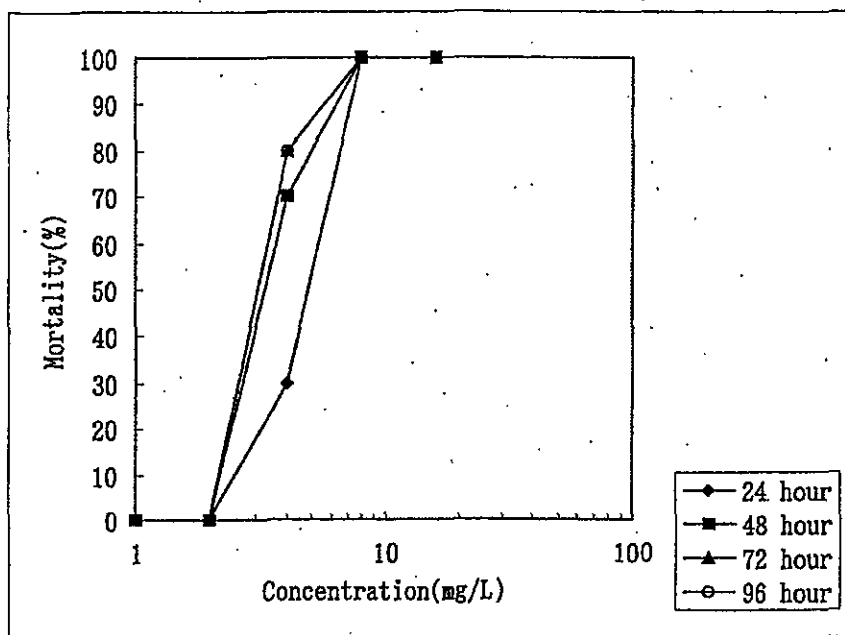
本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.203「魚類毒性試験」(1992年)に準拠して実施した。

- 1)被験物質： 1,2,3-トリクロロベンゼン
- 2)暴露方式： 半止水式 (24時間毎に試験液の全量を交換)
- 3)供試生物： ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4)暴露期間： 96時間
- 5)試験濃度 (設定値)： 対照区, 助剤対照区, 1.00, 2.00, 4.00, 8.00および16.0mg/L  
(公比; 2.0)
- 6)試験液量： 5.0L
- 7)連数： 1 容器/濃度区
- 8)供試生物数： 10尾/濃度区
- 9)試験温度： 24±1°C
- 10)照明： 16時間明/8時間暗
- 11)被験物質の分析： H P L C法

### 結 果

- 1)試験液中の被験物質濃度：測定濃度の設定濃度に対する割合はすべて±20%以内であった。  
したがって、結果の算出は設定濃度に基づいて行った。
- 2)96時間の半数致死濃度 (LC50)：3.22mg/L  
(95%信頼区間：2.00mg/L~8.00mg/L)

Figure 1 Concentration-Response Curve  
Mortality in Orange killifish





## 要 約

試験委託者：環境省

表 題：2,4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)フェノールの藻類  
(*Pseudokirchneriella subcapitata*) に対する生長阻害試験

試験番号：A030420-1

### 試験方法：

- 1) 適用ガイドライン：OECD 化学品テストガイドライン No. 201 「藻類生長阻害試験」  
(1984年)
- 2) 暴露方式：止水式(開放系), 振とう培養(100rpm)
- 3) 供試生物：*Pseudokirchneriella subcapitata* (株名：ATCC22862)  
(旧学名：*Selenastrum capricornutum*)
- 4) 暴露期間：72時間
- 5) 試験濃度：対照区, 助剤対照区, 0.100, 0.190, 0.360, 0.690, 1.30, 2.50 mg/L  
(設定値) 公比：1.9  
助剤濃度一定：98  $\mu$ L/L (N,N-ジメチルメチルアミン使用)
- 6) 試験液量：100 mL/容器
- 7) 連 数：3容器/試験区
- 8) 初期細胞濃度：前培養した藻類  $1 \times 10^4$  cells/mL
- 9) 試験温度：23 $\pm$ 2  $^{\circ}$ C
- 10) 照 明：4000 lux ( $\pm$ 20%の変動内, フラスコ液面付近) で連続照明
- 11) 分 析 法：高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

### 試験結果：

- 1) 試験液および試験培養液中の被験物質濃度

被験物質濃度分析の結果, 測定値の設定値に対する割合は, 暴露開始時の試験液において 94~102%, 暴露終了時の試験培養液において 94~98%であった。阻害濃度の算出には暴露開始時の測定値を用いた。

2) 生長曲線下面積の比較による阻害濃度

50%生長阻害濃度 EbC50 (0-72h) : 0.813 mg/L (95%信頼区間:算出不可)

最大無作用濃度 NOECb (0-72h) : 0.188 mg/L

3) 生長速度の比較による阻害濃度

50%生長阻害濃度 ErC50 (24-48h) : 1.16 mg/L (95%信頼区間:算出不可)

最大無作用濃度 NOECr (24-48h) : 0.337 mg/L

50%生長阻害濃度 ErC50 (24-72h) : 1.32 mg/L (95%信頼区間:1.18~1.47 mg/L)

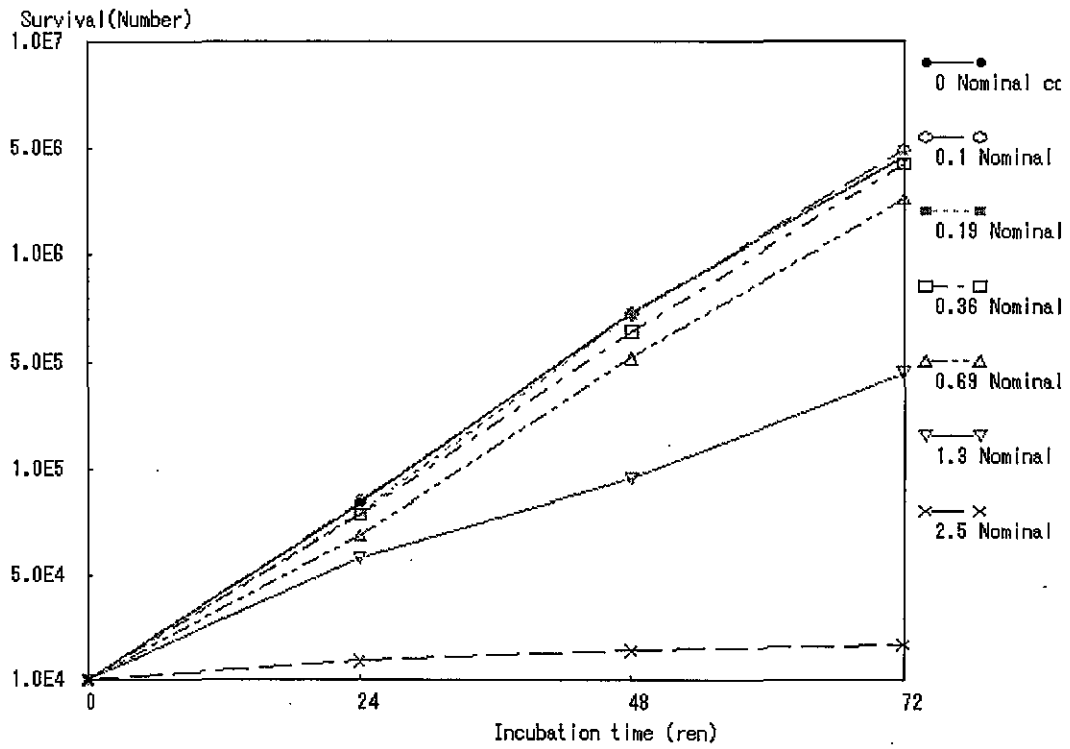
最大無作用濃度 NOECr (24-72h) : 0.701 mg/L

4) 藻類の形態観察

暴露終了時の顕微鏡下での細胞形態観察の結果、全ての濃度区において細胞形態の変化(収縮, 膨張, 破裂等)や細胞凝集は認められず、また、対照区および助剤対照区との相違もなかった。

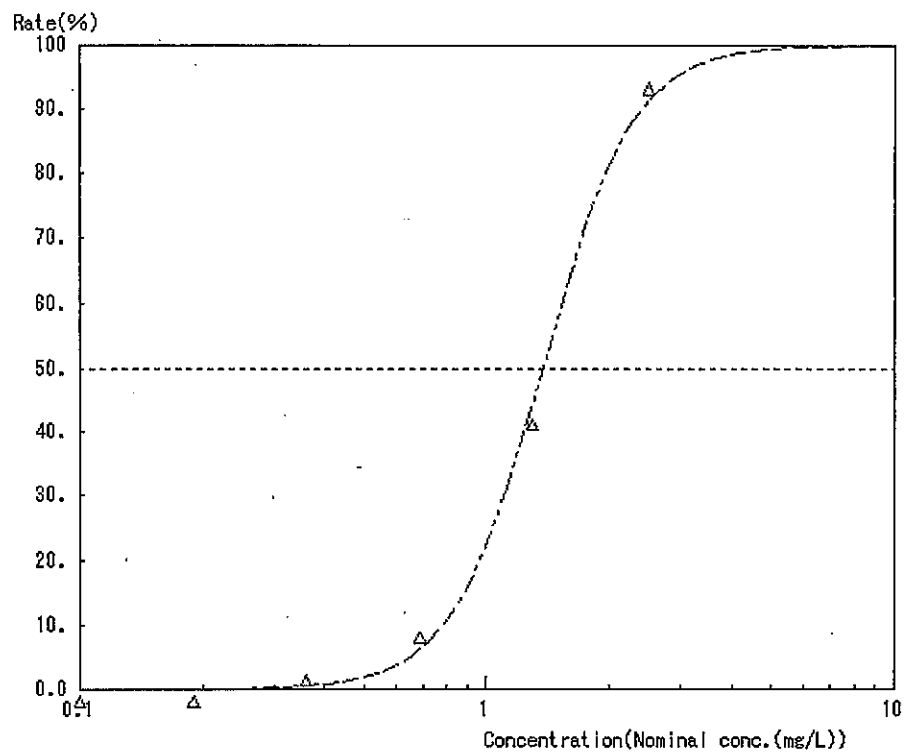
2, 4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)フェノール (CAS.88-85-7)

① 生長曲線



Time course pattern of Algae Growth Test  
88857

② 阻害率曲線



Dose-response curve for EC50 of Algae Growth Test (Logit method)  
88857

③ 毒性値

0-72hErC50 (設定値に基づく) = 1.4 mg/L

0-72hNOECr (設定値に基づく) = 0.36 mg/L

## 要 約

試験委託者：環境省

表 題：2,4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)フェノールのオオミジンコ  
(*Daphnia magna*) に対する急性遊泳阻害試験

試験番号：A030420-2

### 試験方法：

- 1) 適用ガイドライン：OECD 化学品テストガイドライン No. 202 「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」(1984年)
- 2) 暴露方式：止水式  
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供試生物：オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間：48時間
- 5) 試験濃度：対照区, 助剤対照区, 0.200, 0.350, 0.630, 1.10, 2.00 mg/L  
(設定値) 公比：1.8  
助剤濃度一定：38  $\mu$ L/L (ジメチルホルムアミド使用)
- 6) 試験液量：100 mL/容器
- 7) 連 数：4 容器/試験区
- 8) 供試生物数：20頭/試験区 (5頭/容器)
- 9) 試験温度：20 $\pm$ 1 $^{\circ}$ C
- 10) 照 明：室内光, 16時間明 (800 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分 析 法：高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

試験結果：

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果，測定値の設定値に対する割合は，暴露開始時において 91～98%，終了時において 90～96%であった。

2) 24時間暴露後の結果

|                  | (mg/L) | 95%信頼区間 (mg/L) |
|------------------|--------|----------------|
| 半数遊泳阻害濃度 (E1C50) | 0.467  | 0.337 ~ 0.601  |
| 0%阻害最高濃度         | 0.337  | —              |
| 100%阻害最低濃度       | 1.04   | —              |

3) 48時間暴露後の結果

|                  | (mg/L) | 95%信頼区間 (mg/L) |
|------------------|--------|----------------|
| 半数遊泳阻害濃度 (E1C50) | 0.403  | 0.337 ~ 0.601  |
| 0%阻害最高濃度         | 0.180  | —              |
| 100%阻害最低濃度       | 0.601  | —              |

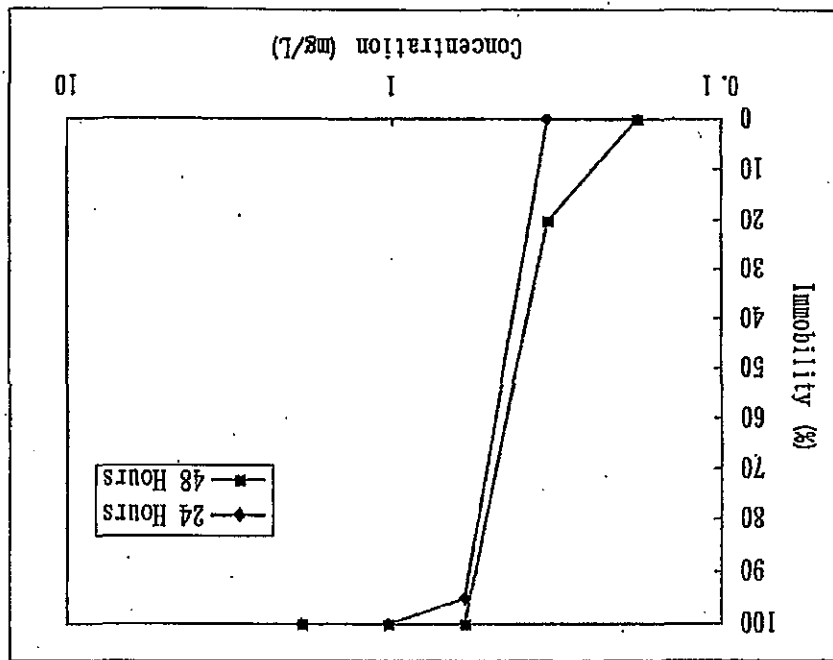


Figure 1 Concentration-Immobility Curve

## 要 約

試験委託者：環境省

表 題：2,4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)フェノールのオオミジンコ  
(*Daphnia magna*) に対する繁殖阻害試験

試験番号：A030420-3

### 試験方法：

- 1) 適用ガイドライン：OECD 化学品テストガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)
- 2) 暴露方式：半止水式(毎日試験液の全量を交換)  
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供試生物：オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間：21日間
- 5) 試験濃度：対照区, 助剤対照区,  
(設定値) 0.00800, 0.0225, 0.0630, 0.178, 0.500 mg/L  
公比：2.8  
助剤濃度一定：100  $\mu$ L/L (ジメチルホルムアミド使用)
- 6) 試験液量：80 mL/容器
- 7) 連 数：10容器/試験区
- 8) 供試生物数：10頭/試験区 (1頭/容器)
- 9) 試験温度：20 $\pm$ 1 $^{\circ}$ C
- 10) 照 明：室内光, 16時間明 (800 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分析法：高速液体クロマトグラフィー (HPLC)



試験結果：

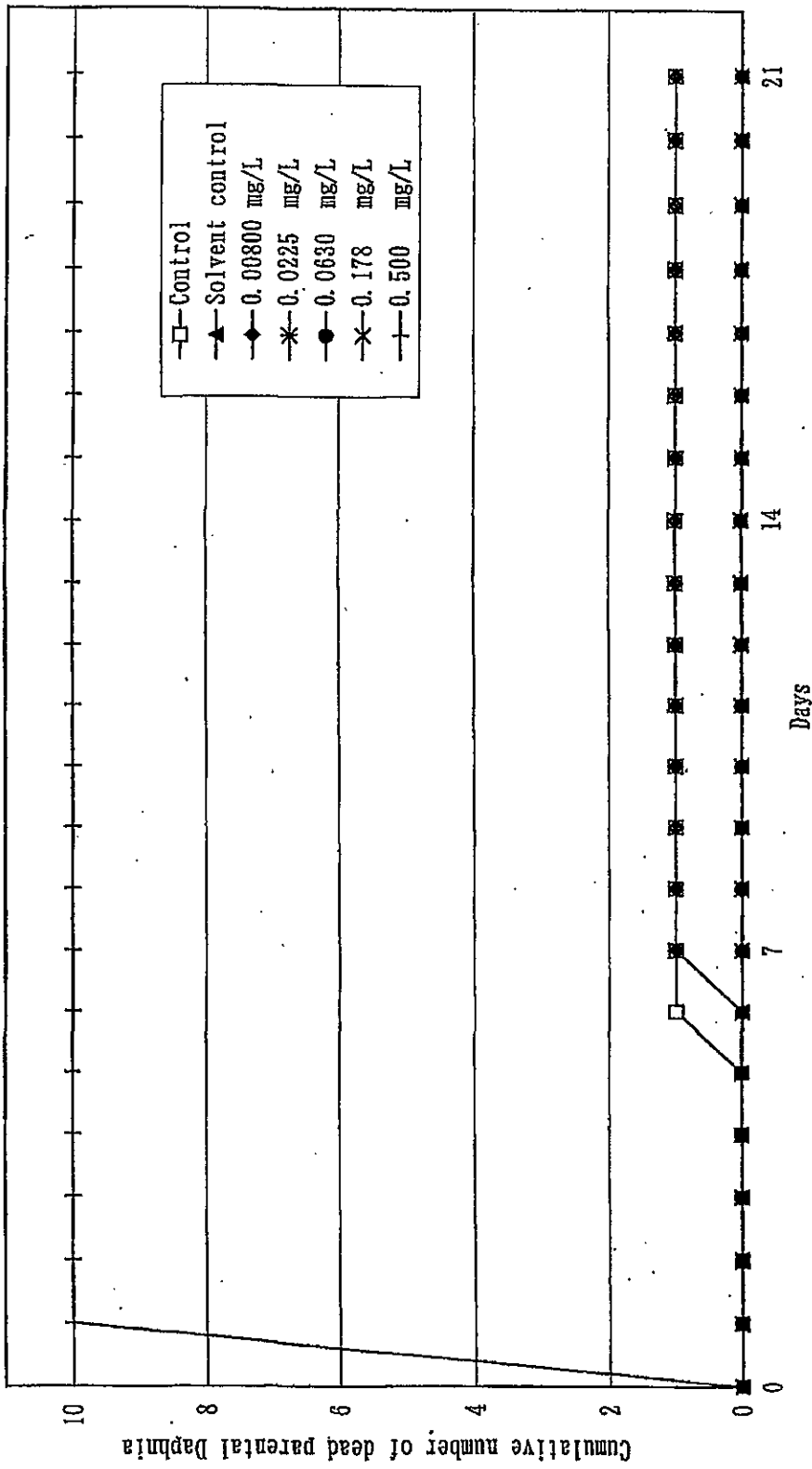
1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、調製時において 93~104%、換水前において 87~101%であった。

2) 21日間暴露後の結果

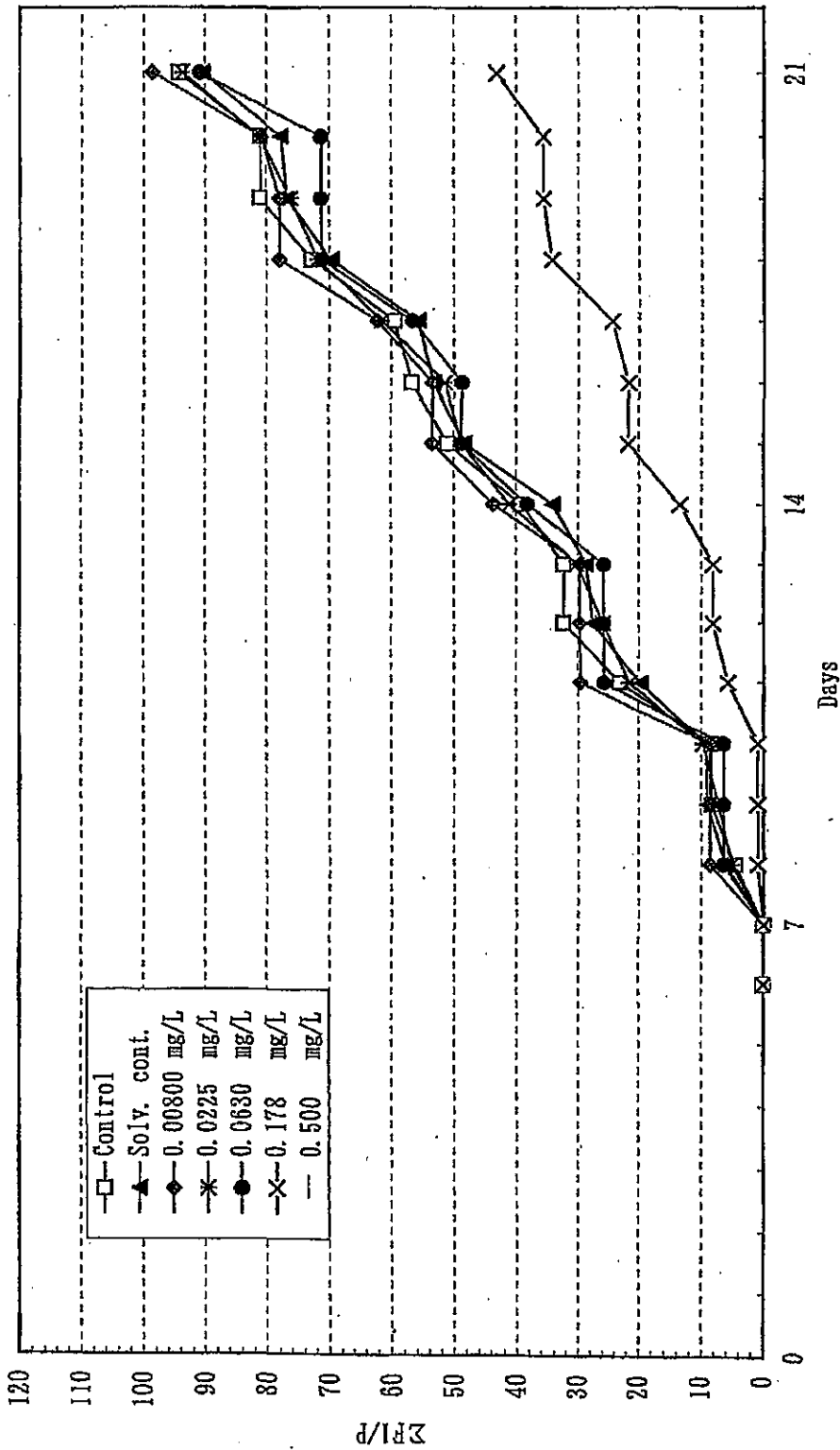
|                     | (mg/L) | 95%信頼区間 (mg/L) |
|---------------------|--------|----------------|
| 親ミジンコの半数致死濃度 (LC50) | 0.284  | 0.174~0.465    |
| 50%繁殖阻害濃度 (EC50)    | 0.173  | 0.160~0.185    |
| 最大無作用濃度 (NOEC)      | 0.0619 | —              |
| 最小作用濃度 (LOEC)       | 0.174  | —              |

Figure 1 Cumulative Number of Dead Parental *Daphnia*



Values in legend are given in the nominal concentration.

Figure 2 Time Course of  $\Sigma F1/P$  for Each Concentration Level



Values in legend are given in the nominal concentration.  
 --: All parental *Daphnia* were dead during a 21-days testing period.